

家庭から出るごみに何が入っている？

1 調査の目的

この調査は、京田辺市より排出される家庭系ごみ（燃やすごみと埋立ごみ）の中に何があるのかを調べ、カンやびんなどのリサイクルできるものや“もったいない”ものが、どのくらい含まれているのかを調べました。

2 調査の時期と調査方法

調査は、平成 23 年 11 月末から平成 23 年 12 月中旬にかけて行いました。

この調査では、ごみ袋 1 袋当たりの重さや大きさを確認するため、家庭から排出された状態を保つように、通常のパッカー車による収集方法ではなく、市職員がダンプトラックにて別途収集しました。

そして収集したごみ袋は、ごみ袋を 1 個ずつ重さと大きさを計量したのち、約 50 種類の項目に分けて、それぞれの項目ごとの重さと大きさを計量しました。

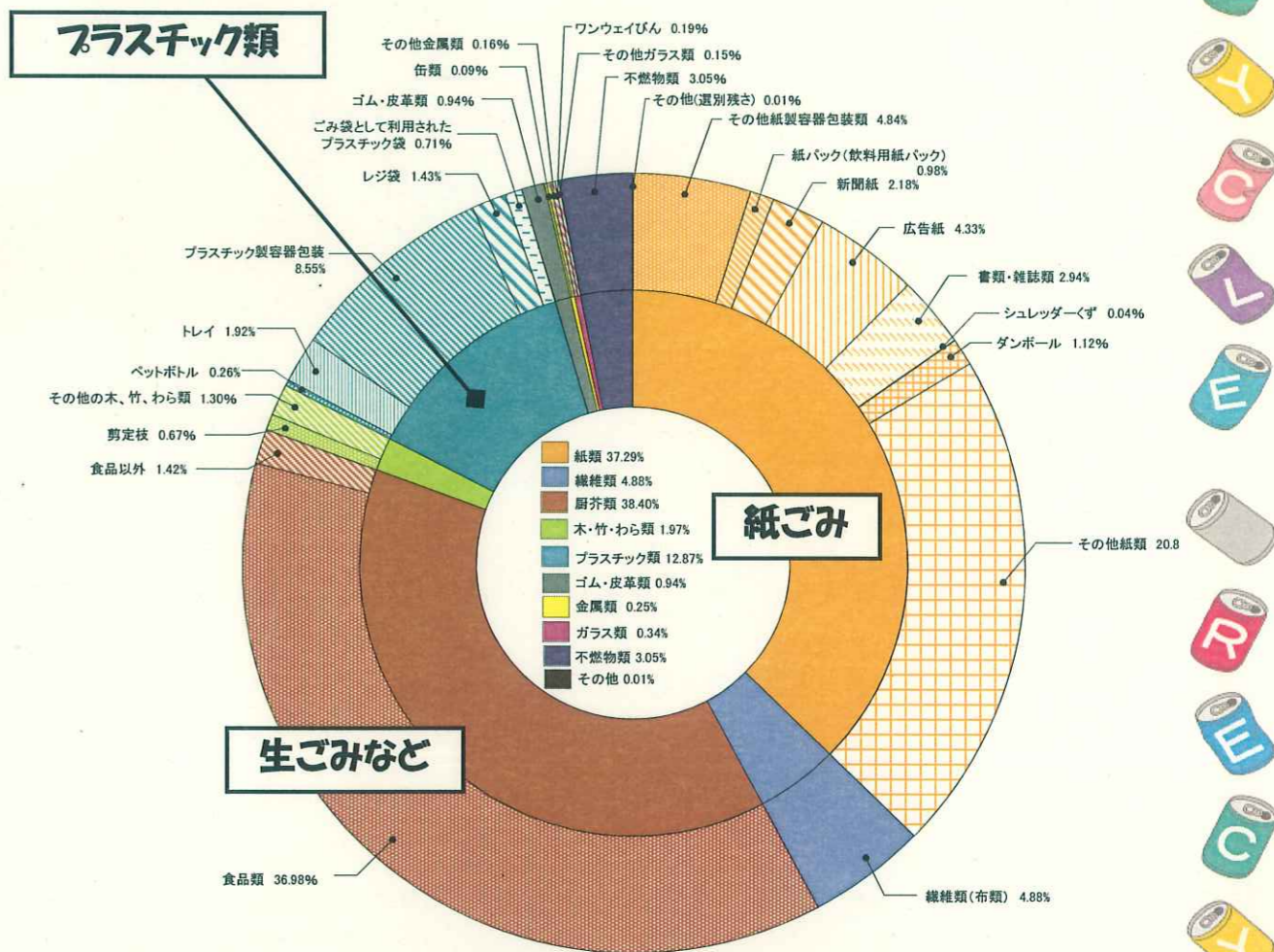


3 調査結果

(1) 燃やすごみの組成割合

重さの割合では、ちゅう芥類（生ごみなど）が約 38%と最も多く、次いで紙類が約 37%、プラスチック類が 13%でした。

その中でも、ちゅう芥類の食品類（食べ残しなど）が最も多く、全体の約 37%を占めています。

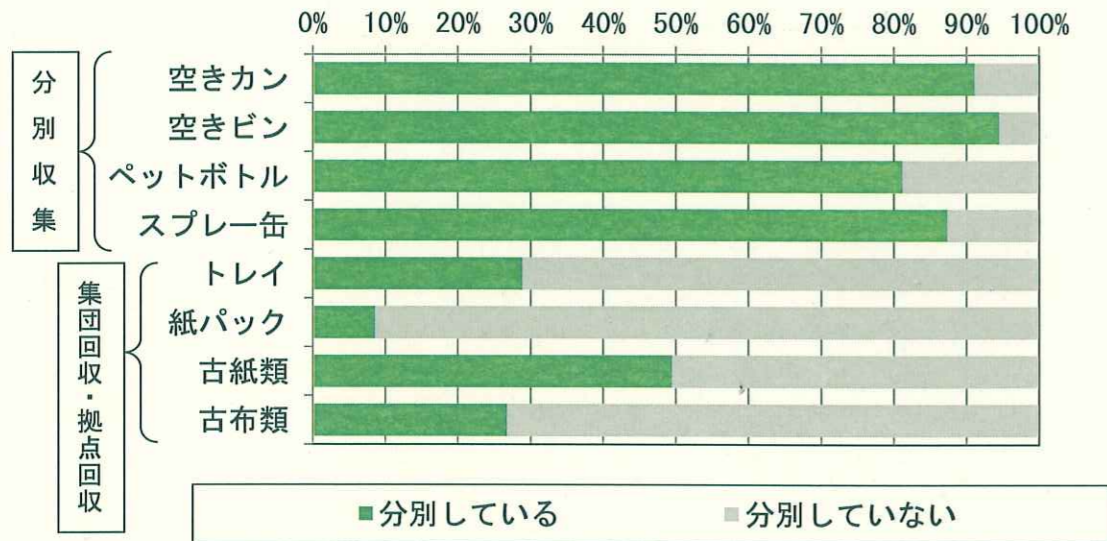


(2) どのくらいごみの分別に協力しているの？

下の図は、資源ごみであるもの（空きカンや空きビンなど）が、ちゃんと正しく分別しているかを割合として示したものです。

それをみると、分別収集をしている空きカン、空きビン、ペットボトルそしてスプレー缶は、しっかりと分別ができています。でも、集団回収や拠点回収で集めているもの（トレイや古紙類など）は、分別収集をしているものと比べると、分別できていないことがわかります。

これにより、集団回収や拠点回収で集めているものの割合を大きくするためには、みんなの協力が必要です。



「分別収集」とは、ごみや資源物などの集める作業を市が行うものです。
 「集団回収」とは、自治会や子ども会などの市民団体が市の支援を受けるなどして行う資源回収方式です。
 「拠点回収」とは、スーパーや公民館など公共施設に回収箱を設置し、そこに市民が資源物をいれる回収方式です。



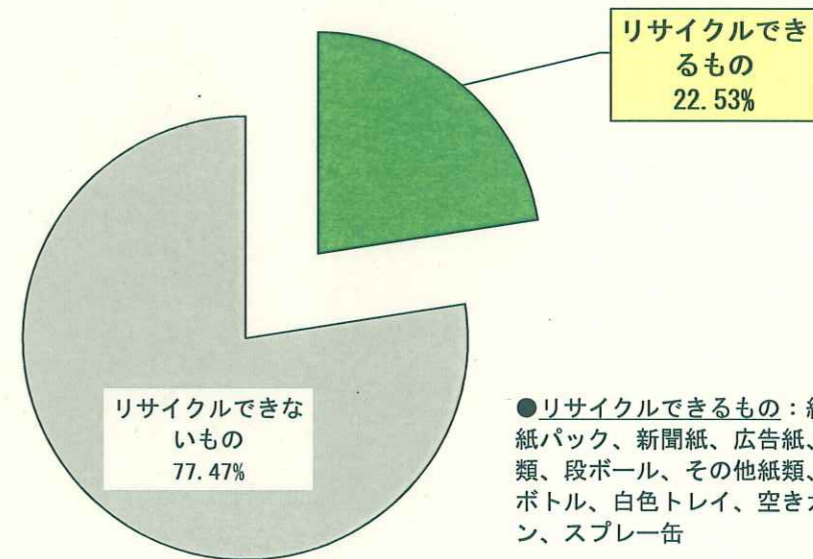
ゴミの分別にご協力ください

(3) さらにリサイクルをめざして！！

さらにリサイクルを進めるためには、燃やすごみと埋立ごみに混入していたリサイクルできるものがどのくらいあるかを調べておく必要があります。

下の図をみると、燃やすごみや埋立ごみにリサイクルできるものは、まだ20%以上含まれていました。これからは、このリサイクルできるものを燃やすごみや埋立ごみに出さず、資源ごみに出すようにしましょう。

なお、埋立ごみには、まだまだ使えるものが含まれていました。



●リサイクルできるもの：紙製容器包装、紙パック、新聞紙、広告紙、書類、雑誌類、段ボール、その他紙類、布類、ペットボトル、白色トレイ、空きカン、空きビン、スプレー缶



まだまだ、つかえそうなものが、こんなにも捨てられています。

